

目次

国定四期（昭和八年度から使用）

小學國語讀本（文部省編）…………… 1

小學國語讀本_{科尋}編纂趣意書（第四次国定）…………… 471

解説…………… 585

出

ある所で、子どもたちが五六人集って、
 かげふみをして、あそんで、みました。
 そのうちに、月に雲がかかりました。
 月は、雲にはいったかと思ふと、
 すぐ出、出たかと思ふと、すぐま
 たはいります。かうなつては、かげふみ
 も出来ません。子どもたちはあそぶこ
 とを止めて、しばらく月を見てみ

七月と雲

四十一

圓

空には圓いお月さま、
 ぽっかりうかんだ白い雲。
 月にうかれて、腹つゞみ、
 ほんぼこ、ほんぼこうち出した。

七月と雲

月夜の晩でした。

七月と雲

四十

上



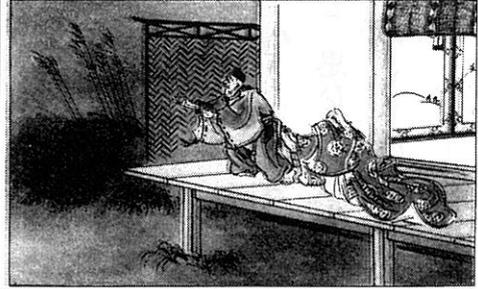
りません。月夜の晩に
 は、どうか、私のことを
 を思ひ出して下さい。私
 も、お二方のおんは、
 けつして、忘れません。
 と、いって、天人のようい
 して来た車にのつて、空
 へ上つて行ってしまひました。

五かくやひめ

三十七

今、お別れ申すこと
 とは、まことに
 かなしうございます
 が、いたし方があ
 ります。

今、お別れ申すこと
 とは、まことに
 かなしうございます
 が、いたし方があ
 ります。



五かくやひめ

三十六

木

腹つゞみ。
 やぶのかげから、
 木かげから、
 ぬっくり、ぬっくり、
 子だぬきが、
 出て来てお山へ集つて、
 ずらりと並んでわになつた。

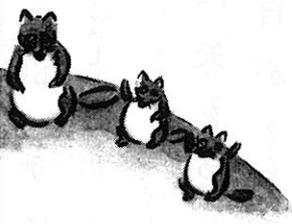


六たぬきの腹つゞみ

三十九

腹

六たぬきの腹つゞみ
 「さあ、さあ、集れ、月が出た。
 みんなで、つゞみの
 うちくらだ。」
 お山の上では、
 親だぬき、
 ほんぼこ、あひづの



六たぬきの腹つゞみ

三十八

次

「お月様が走つてゐるのだよ。
 と、一人の子どもがいひました。
 しかし、じつと月を見つめてゐますと、
 月は動かないで、雲が大急ぎでこ
 んで行くやうにも見えます。それで、
 「お月様ではない。走つてゐるのは
 雲だ。」
 といふ子どももありました。

七月と雲

四十三

様

ました。
 すると、一人の子どもがいひました。
 「あれは、お月様が走つてゐるのだ
 らうか、雲が走つてゐるのだらう
 か。」
 月は、今雲から出て、大急ぎでは
 なれて行きます。さうして、次の雲の
 方へ、どんく走つて行きます。

七月と雲

四十二